

# ハスカップの可能性探る

## 苫東環境コモンズが討論会

地域の環境を守り、活用する研究や活動に取り組む環境コモンズ研究会とNPO法人苫東環境コモンズは5月31日、苫小牧市サンガーデンでフォーラム「ハスカップ新時代にに向けて」勇払原野の風土と資源を持続的に共有するための「イニシアチブ」を開いた。

苫小牧市や札幌市、厚真町などから自然環境やハスカップに興味のある約70人が来場した。フォーラムの冒頭、環

境コモンズ研究会座長で北大公共政策大学院の小磯修二特任教授は「コモンズとはみんなで使える共有地の意味。苫東に自生するハスカップの価値を高めていきたい」とあいさつした。

基調提言では、北大大学院農学研究院の鈴木卓准教授が「今、世界が注目しているハスカップ」と題し、アメリカの農業研究機関や種苗会社でハスカップが新たな作物とし

て重要視されつつある事例を紹介。また、NPO法人苫東環境コモンズの草苺健事務局長が「ハスカップの保全と苫東」をテーマに、勇払原野のハスカップの現状と地域ブランド化の可能性を語った。

フォーラムでは、ハスカップファーム山口農園の山口善紀園長が品種登録や商品開発について説明。女性みなと街づくり苫小牧の大西育子代表は、ハスカップ摘みに関する子供時代の思い出を話した。日本野鳥の会の原田修チーフレンジャーは勇払原野の貴重な自然環境を保全する重要性を強調した。



ハスカップの保全と活用をテーマに討論

環境コモンズフォーラム

ハスカップ

新時代に向けて〈上〉

環境コモンズフォーラム「ハスカップ新時代に向けて」が5月31日、苫小牧市サンガーデンで開かれた。フォーラムに先立って行われた北海道大学大学院農学研究院、鈴木卓准教授とNPO法人苫東環境コモンズ、草苺健康事務局長による基調提言の内容を紹介する。

リカに渡って改良され、大きな果実になった。明治時代に日本にやってきた作物です。そうした観点からハスカップを見てみたい。

最近、生物多様性が叫ばれています。何が多様なのか。まず生態系の複雑さ、それから種がいかに多く残されているか、遺伝変異の幅広さ。きょうは、ここに注目していただきたい。

バナナは、昔作られていた品種が世界的な規模で病



ハスカップに関する基調提言

ゴの木の病気が流行しており、病気に強い品種を作るのが課題。野生種の中に耐病性のあるものがあるかもしれない。その血を入れるという事です。

ハスカップも自生株の方が優秀な部分があるかもしれない。栽培化だけでなく野生の多様な遺伝子を残しておくことがハスカップを果樹として発展させる上で重要です。

勇払原野には、ハスカップの貴重な野生株が残っている。苫小牧市民や道民、全世界の生産者に、このことを再認識してもらいたいです。

多様な遺伝子残存が発展の鍵

勇払原野に残る野生株

ハスカップに関わって30年ほどになります。勇払原野のハスカップの重要性を園芸学の立場から紹介したい。

私には、園芸作物を研究対象にしています。アスパラ、ブルーベリー、夕張メロン、トマト、キウイフルーツなどは意外と本格的に栽培を始めたのは最近で、新しい作物です。リングゴはアゼルバイジャンやグルジア周辺が原産地で、イギリスアメ

気にかかり、今の品種に入れ替わりました。しかし最近、現行の品種も新たな病気に弱くなることが判明し、問題になっています。世界には今までにない新たな果実を探している研究者がおり、カナダ北部ではハスカップが注目され、栽培方法を模

索しています。ここでハスカップが出てきました。私はアメリカの研究施設を見ました。オレゴン州のベリー類の研究施設では広大な畑でハスカップが作られていました。勇払に自生するタイプのハスカップは非常に優秀な資源。ちょうどいい時期に花が咲き、実が付く。栽培をする上で優秀です。

ニวยอร์ก州の研究施設では、リングゴやブドウなどの品種を集めていました。リングゴ一つとっても果実で大きな変異がある。花や葉も同様。あちらではリン

北大大学院農学研究院  
鈴木 卓准教授  
「今、世界が注目している  
ハスカップ」

環境コモンズフォーラム

ハスカップ

新時代に向けて〈下〉

NPOの苫東環境コモンズはマイナーな存在で、ご存じない方もおられるかもしれない。勇払原野の多くは株式会社苫東に収められています。その使われていないものの魅力的な部分を使わせていただいています。保全活動をしながら地域住民が活用できるコモンズ活動をしている団体です。

保全と苫東について考えると昭和50年代(1975～84年)はハスカップにとっ

て重要な年代でした。苫小牧の人口は昭和20(45)年に2万7000人ほど。平成12(2000)年には17万人くらいになっています。人口が倍々で増えた街。昭和26(51)年に苫小牧港の工事が始まり、昭和40年代(65～74

年に苫東プロジェクトが始まりました。ハスカップに話を戻します。原野が開拓されてハスカップは数を減らしていきまし。西港の部分でも姿を減らしています。その中で保護活動も行われまし。ハスカップの自生地の面積は少なくなっています。残っている場所もあります。昭和48(73)年には将来を見越して移植開始。いすゞの工

場進出に合わせた環境アセスメントもありました。いすゞの予定地と東側の原野などから市民に2万本、農協などに1万7000本、苫東内のつた森山林などに2万本が移植されました。道北の小さな小学校に寄贈したのも思い出深い。ただ、ハスカップは園芸の庭木になりたくて全てが残っているとは思えません。

ハスカップに関するエピソード

将来を見越して移植

勇払原野に聖地存在



基調提言をする草刈さん

ソードもお話したい。苫東のハスカップはワインにしようとしても発酵しないので砂糖を加えました。昭和天皇はデザートにハスカップを選んだことがありま。私はハスカップ宣伝のラベルを作ったことがありますが、ハスカップの地域ブランドはまだ決定打がありません。ストーリーがつくり切れていません。ハスカップは自生地と栽培地が異なっています。勇払原野が聖

地であることは間違いがない。ここにはハスカップの聖地が存在すると思う。一つは成長した株が群生している場所。一つは新しい苗が発生しようとしている場所。両方がハスカップの聖地です。ハスカップ新時代について話します。どうせやるのであれば関係者の中心にハスカップを置いて精神的な中核としたい。例えばハスカップを北海道遺産にする。ハスカップと市民の記録の冊子、「ハスカップとわたし」(仮題)を作る。三つ目にはハスカップ保全の担い手の育成が必要です。

NPO法人苫東環境コモンズ  
草刈 健事務局長  
「ハスカップを  
北海道遺産に」